



窪田弘子 議員

下水道料金はこのままでいいのか

平成9年、最初の利用が始まって以来、19年に一般浄化槽並みにと一回値上げしただけで、維持管理費は今年の予算でも8800万円一般会計から補てんしている。当初は、3年ごとに料金を見直す予定だった。住民サービスの公平という点からも、少しづつ値上げをし、受益者が払うようにすべきではないか。

町長

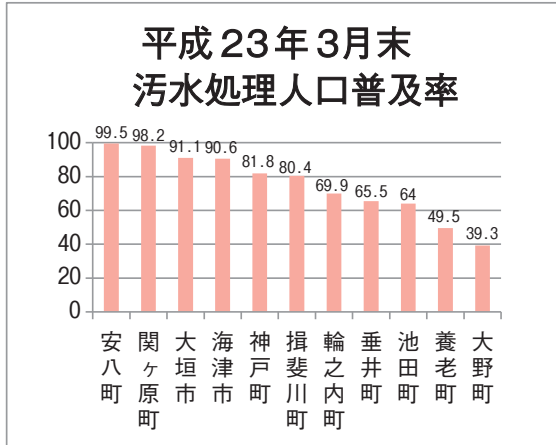
維持管理費は使用料でまかないたいが、今の値上げラッシュの中、接続率も上げたい。

ので、値上げは難しい。

使っただけ払うという従量制がないのは、西濃で池田町と揖斐川町だけ。値上げを町民に納得してもらうためにも従量制にすべきでは。

町長

分かりやすい話だが、すぐには難しい。



急ピッチで進む西濃地方の汚水処理事業
公共下水・農業集落排水・合併浄化槽すべてを含む。
大野町は合併浄化槽のみ。

近隣では下水道事業を急ピッチで進めている。今は、

金利も安いので、もっと投資して、工事を大幅に前倒し早く全町完備されたい。

町長

高度合併浄化槽ならば、事業費も少なく、早くできるので、区域を定めて高率補助でやったかと考えている。

地産地消はまず学校給食から

今は食材が世界中から来るが、安全な野菜を誰もが求め、新鮮な地元産を子供たちに食べてもらいたい。

学校で食べ物の生産の事を教える食育は重要。地元産の野菜は給食で大人気だ。地産地消の成功例は、消費者ニーズに軸足を置き、いっ何がどの位要るかに応じた生産をしている。学校や農協という買い手と農家をつなぐ機能が不可欠で、町はその役割を担うべきではないか。

町長

地産地消は私も同感で、安全な地元産野菜を全量でも給食に使用したい。今農業婦人クラブなどに出してもらっているのは、野菜では10%程。町はすべてをまとめるのでなく、取り組んで下さる方の支援をしていく。



給食風景 (池田中学校)

さらに文化の薫る町に

歴史・文化の発展があつて、魅力ある町になっていると思う。

専門職の学芸員が1人みえるが、文化の継承には時間がかかる。跡継ぎを採用されたい。

町長

他の部署に学芸員の資格者が2名いるので育成し、町の文化面を強くして行く。